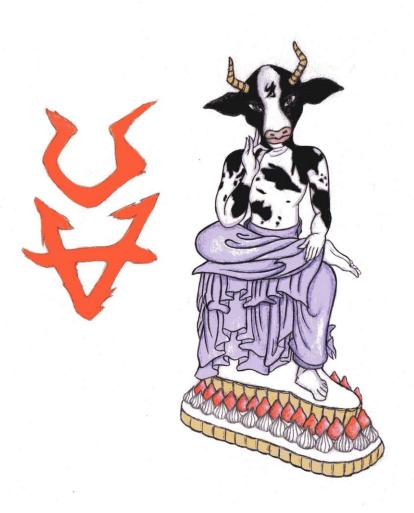
2021年 1月1日 **No. 124**

隔月1回発行

特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク会報

ひきこもり



謹賀新年

イラスト 小松 英行



会報は札幌市さぽ 一とほっと基金助 成事業・ひまわり ピア・サポート基 金により作成され ています

Index

2ページ 居場所「よりどころ」活動報告・就労へのプロセス ほか

3ページ 居場所「シエスタ」開催 吉田英司氏が経験談を語る 苫小牧市、江別市サテライト居場所事業全会期終了

4~5ページ

長期化するひきこもり家庭のコミュニケーション不全 ぼそっと池井多氏の講演(後編)

6ページ ぼそっと池井多氏メディアに取り上げられる ほか

7ページ 北海道新聞・私の新聞評に田中敦理事長の記事掲載 ほか

8ページ こちら事務局/編集後記

グを受け、

日々悶々として溜め込んでいた

話題提供:就労へのプロセスを語る居場所「よりどころ」活動報告①

験談を聴いた。 題提供として社会復帰した当事者Nさんの経11月23日の「よりどころ」親の会では話

こもり)ではないと思っていた。まだ大丈でもなく、家にいるのは病気のせいで(ひきられたがら、大学2年も楽しくなかった。夢も希で、一次で、一次でのではないと思いがめ、大学2年も楽しくなかった。夢も希では、大学を中退した。 はいから、大学2年も楽しくなから 30歳までひきこもりが始まり、21歳から30歳までひきこもりが始まり、21歳から30歳までひいきこもり)ではないと思っていた。まだ大丈とは、大学2年の夏休みからいきこもり)ではないと思っていた。まだ大丈とは、大学2年の夏休みからいきこもり)ではないと思っていた。まだ大丈とは、大学2年の夏休みからいきこもり)ではないと思っていた。まだ大丈とは、大学2年の夏休みからいきこもり)ではないと思っていた。まだ大丈とは、大学2年の夏休みからいきこもり)ではないと思っていた。まだ大丈とは、大学2年の夏休みからいた。

またらにこの運動ではいらずほず シにもりを自覚し始め、罪悪感がでてきた。して、精神科に通院しながら少しずつひきこ家で生活する。姉と二人の生活で家事を分担家で生活する。姉と二人の生活で家事を分担

なんとかなると思っていた。

をした。センターでは月1回のカウンセリンをした。センターでは月1回のカウンセリンターの存在を知り迷いに迷い、実際にメーに関して調べ始めた。ひきこもり地域支援セたNさんはどうしようかと考え、ひきこもりたNさんはどうしようかと考え、ひきこもりたりでは、身体を動かしていたが無力感、情けな通い、身体を動かしていたが無力感、情けな家にいることの運動不足から市民プールに家にいるで

のルールをつくった。

気持ちが軽くなり、自分の思いを口に出せる気持ちが軽くなり、自分のルールをつくった。
にとの効果を改めて感じた。しかし、体力がことの効果を改めて感じた。しかし、体力がいでいる。
にはった。心が軽くなり思いを口に出するのがしんをつくった。

場のため、働きやすい環境になっている。場のため、働きやすい環境になっている。間の勤務で働いている。それが初めての就労経験だった。ゆっくりだったが30歳で会社の面接を紹た。ゆっくりだったが30歳で会社の面接を紹た。面接官には自分がひきこもっていたことた。面接官には自分がひきこもっていたことた。面接官には自分がひきこもっていたことた。面接官には自分がひきこもっていたことた。面接官には自分がひきこもっていたことた。面接では自分がひきこもっていたことを隠さずに話し、もうどうなってもいいくらた。まだフルではないが週5日、1日5時になる。まだフルではないが週5日、1日5時になる。まだフルではないが週5日、1日5時になる。

ないでほしい」と語った。

(鈴木祐子)
なんは再びひきこもるのではないかという不さんは再びひきこもるのではないかという不会をもつ理由を「仕事が長くなると疲れてく安をもつ理由を「仕事が長くなると疲れてく安をもつ理由を「仕事が長くなると疲れてくなるとでがある」と答え、経験者の立場から親に対して望むことにか有り難かった。親の理想や希望を押しつけが有り難かった。親の理想や希望を押しつけが有り難かった。親の理想や希望を押しつけるいでほしい」と語った。

(鈴木祐子)

ゲームで緊張感をほぐす参加者場所「よりどころ」活動報告②

映するかのような内容でした。(田中(敦)の、横領に巻き込まれたり、現代の世情を反逆転をねらい投資するも惜しくも失敗した。一系人様席に分かれて交流。ゲームテーブル(写真ろ」当事者会を開催。2つのグループとお一ろ」当り1日(月)、年内最後の「よりどこ12月21日(月)、年内最後の「よりどこ



(写真-1) ゲームテーブルを担当 するピアスタッフ

吉田英司氏が経験談を語る 江別市で居場所「シエスタ」 を開催

り意見交換を行った(写真-2)。 いて9つの主催共催後援団体の関係者が集ま 行方法、内容、PR方法、感染防止策等につ 大する中、後半開催へ向け、会場づくりや進 地点に来た。新型コロナウイルス感染者が拡 ライト型居場所「シエスタ」開催が折り返し 月19日(木)、江別市で実施するサテ

市社会福祉協議会からは、 使用できる限り感染防止策を図りながら事業 地道な取組みに評価する声もあった。 談へつながったケースもある」とこれまでの を継続することを確認。共催団体である江別 11月25日(水)、江別居場所「シエスタ 会場となる江別市総合社会福祉センターが 「シエスタから相

当。 当事者・家 田英司氏が担 アスタッフの吉 話題提供は、ピ かれて行った。 から少人数に分 かれ感染防止策 のグループに分 族それぞれ3つ 吉田氏の話題提



(写真-2)

状況から立ち直



話題提供で経験談を語る 吉田英司氏

れやすい」。また「他人は自分を映し出す

鏡」と表現し「等身大の自分を知るためには

人間関係は必要」と述べ、最後に「他人との

るが、その反面、

自己中心的な思考にとらわ

ることができるため人間的な成長が期待でき らは開放されゆっくりと実存的な問題を考え

「一人でいることは人間関係の煩わしさか

(写真-3)

り、現在の心境に至るまでを語った(写真-

述べた。吉田氏は、ひきこもり経験を活かし

ると思う」と結び、生きていくための指針を って生きていくことが現代人に与えられてい 共存と自分自身の世界をうまくバランスをと

3

か」という状況にまで追い詰められた。 将来を悲観し「刑務所に入るか自ら命を絶つ っと生産的なことをした方が良い」と言われ を余儀なくされた。精神科へ通うが医師から が多く、学校生活に馴染めず進学した高校で きているのかなど実存的な問題を考えること は「哲学とは特権階級が余暇でするもの。も は腹痛などの身体症状が発生し、保健室登校 吉田氏は、中学に進学したころから何故生

間で開催し、市内近郊から23名が参加した。 ③」は江別市総合社会福祉センター2階大広

校へ再入学し勉学に励んだ。 たが、固定された宗教を信じるのではなく幅 時は牧師を目指すほどキリスト教に感化され 交流を積み重ね少しずつ変化していった。 らえない感情を真摯に聴いてくれた牧師との 広い見識を磨き教養を高めるため通信制の高 介され、怒りや悲しみなど誰にも理解しても そのような時期に母親から一人の牧師を紹

在の心境を次のように述べた。 吉田氏はこれまでの人生を振り返りつつ現

協力を賜りありがとうございました。

全ての会期を終了 苫小牧市、江別市サテライト事業

アスタッフとして活動の幅を広げている。 会におたる」でも話題提供し、当NPOのピ 月10日に開催した「サテライトSANGOの 公認心理士と臨床心理士の有資格者として 12

更し、 内容は次号で報告します。皆さんのご支援ご 今年度は新型コロナウイルス感染が出る前の タ」は12月23日(水)に第4回目を開催し 共催して開催してきました居場所「シエス 実施計画に基づく開催となり、当初予定を変 すべての会期を終了しました。話題提供した 体機関のバックアップによる苫小牧居場所 「とまとま」には31名の参加がありました。 また先述の通り江別市で社会福祉協議会が 12月3日 全2回の会期日程を終了しました。 (木)、8つの行政機関や支援団

長期化するひきこもり家庭のコミュニケーション不全 ぼそっと池井多氏・講演採録(後編)

論なので子どもは反論できない。私に言わせれないで押しつける。押しつけるときの言葉が正論を「うちの子には適応できるかな」とは考え

ば正論というのは支援者や親が語る言葉であり

語になっていて世間を後ろ盾にした説教をして

います。それは対話ではありません。さらに親

「何歳までに就職し結婚して」といった一般

◇正論と真論

うするのは当たり前だろ」と言って三人称が主す。つまり「世の中そういうものだ」とか「こして捉えず胸襟を開いていないように感じまかけると、親は子どもを対話している」と答える。と問うと「きちんと対話している」と答える。と問うと「きなんともっと対話してはどうですか」「子どもさんともっと対話してはどうですか」「子どもさんともっと対話してはどうですか」



(写真)講演終了後、参加者と座談会で 交流するぼそっと池井多氏

している言葉を繋ぎ合わせればいいのですかしている言葉を繋ぎ合わせればいいのですかいるという意味で真論と呼んでいます。正論はいるという意味で真論と呼んでいます。正論は社会の論理です。例えば「働かざる者食うべかさず」。これに対してひきこもりが語る言葉は私の造語で正論と対峙しながらも本当のことを言っている人たちが語る言葉なのです。正調はしている言葉です。昼間のビジネスマンが休憩時間

もの方が不利なのです。 もの方が不利なのです。 しかし真論というのはそうはいきません。 しかし真論というの人たちが自分の頭で考えて言値でできない子どもを比べると、圧倒的に子どきにければいけない。この翻訳作業は時間もかかりや親に理解してもらえるような言葉に翻訳しなければならない。昼間に生きている支援者個々ひきこもりの人たちが自分の頭で考えて言もの方が不利なのです。

◇斜めの対論

願う親御さんは多いです。私も20年間音信話できないが、何を考えているかは知りたいとそれぞれの家庭において自分の子どもとは対

への対論をおりただっかけ、明介はいでした。 く、他人のひきこもる子どもと対話するという 論」で、ひきこもるわが子と対話するのではな そこに着目したのが「ひきこもり親子公開対 不通の親が何を考えているのか知りたいです。

なりすましてひきこもりの家族会に出席したこなりすましてひきこもりの家族会に出席したが のおかげで私が何を考えているのかがわった」 しながら激論になりました。もう出入り禁止に であることを告白し、ある母親と顔を真っ赤に であることを告白し、ある母親と顔を真っ赤に なるかと思い帰ろうとしたところ、その母親が なるかと思い帰ろうとしたところ、その母親が なるかと思い帰ろうとしたところ、その母親が なるかと思い帰ろうとしたところ、その母親が なるかと思い帰ろうとしたところ、その母親が なるかと思い帰ろうとしたところ、その母親が ないということなのです。

◇ポリローグの必要性

みました。公の言葉です。 ुं व 部になります。そうすると自分の胸にだけ秘め 歩きしていきます。責任も伴いますが社会の一 ス)などの意味があります。私は公話と訳して グ」ですが、ポリの語源は政治(ポリティク 否定的に思われますが精神衛生上よいことで こで言ったことは社会の言葉として独立し独り 衆の顔一人ひとりを覚えていませんが、私がこ 講演することもポリローグです。 喋った方は聴 こと。そしてあまり知られていない「ポリロー グ」のような独り言、 人の話し方を3種類に分類すると「モノロー 「ダイアローグ」は二人ぐらいで対話する ボヤキ、愚痴。これらは 私がみなさんの前で

と言えます。と言えます。私は日本全国のひきこもっているんだよ」などの子は今二階でひきこもっているんだよ」などはている」と言うように変な小細工をしてごまけている」と言うように変な小細工をしてごます。私は日本全国のひきこもりをポリローグにすいた重圧から開放されるメリットがありま

◇ひきこもり公開対論の意義

ものように変化しています。 とりは恥ではなくなると思います。 「公開」というがオープンに議論できるようになればひきこちがオープンに議論できるようになればひきこちがオープンに議論できるようになればひきこもりは歌がを溜め込み恥意識が増幅しひきこものおはなりを溜め込み恥意識が増幅しひきこものいます。親は世間体を気にしてひきこもののもは怒りを溜め込み恥意識が増幅しひきこものがはいるという悪循環を断ち切らないと日本のひきこもり問題は良います。 親は世間体を気にしてひきこものおけるというを溜め込み恥意識が増幅していきこもりはいるというを溜め込み恥意識が増幅しています。「公開」という公開対論」を開催しています。「公開」という公開対論」を開催しています。「公開」というなります。

で親子の対話に刺激を与えて動き出させるといました。まだ始まって1年半ですが色々な形態がその人の親に扮して語ってもらうときもありきこもり当事者が自分の親に言えないことを私が親の会につながったこともあります。またひきが家庭内に生じてそれまで無関心だった父親る母親が公開対論で語ったことで小さな揺れ動る母親が公開対論はこれまでに9回開催しました。あいたと答えています。

◇当事者が語る言葉から学ぶ

にもできないから苦しんでいます。

私はひきこもりを支援する方にちに関単に頑和していたの。だから支援者と結びつきやすいからです。だから支援者は子どもに対して親いからです。だから支援者は子どもに対して親いからです。だから支援者は子どもに対して親いからです。だから支援者は子どもに対して親いからです。だから支援者は子どもに対して親いたできないから苦しんでいます。

葉に翻訳して伝えてほしいのです。そこで学んだことを親御さんがわかる社会の言側について彼らが語る言葉を学んでください。私が期待したいことは、支援者はまず当事者

成立します。
割は、当事者が伴走者を求めているときに限りません。支援する意味において伴走者という役持ちを満たすために存在しているわけではありが、当事者は支援者のもつ支援したいという気が、当事者は支援者のもの対別の解決です

◇8050問題という仮面

ると言いつつ問題を保持したい。自分は「ひき割かはその問題解決を望んでいない。問題があい、私はこれを仮面問題と語らないためにあえて最大公約数的本音の会話を拒んでいる家庭は多いです。これの問題はそこにはなくその背後にあります。本当問符を顔に付けてやって来る親御さんがいます。本当家族会で「親が死んだらどうするという」疑

を持つわけです。 を持つわけです。 という部分が意味 を持することで社会や世界につながる入り口になっているからです。これでは支援者もひきこもっているからです。これでは支援者もひきこもらいのです。それはひきこもりという問題を保こもりだ」と頭を抱えながらもひきこもりでい

で8代の母と50代の子が餓死した事件は8050問題の典型だと報道されましたが私はそうな問題自体は解決しなくても問題の所在は把握ま者が支援者のもとにやってきたときに、たとうとつながることができ孤立が防げます。その会とつながることができ孤立が防げます。そのたってはいけませんがそれを怠れば不介入にになってしまうため支援者はその狭間で苦しんでなってしまうため支援者はその狭間で出した事件は80になってしまうため支援者はその狭間で苦しんでいると思います。

◇過去にこそ未来がある

います。

います。

います。

の分が今あるのは過去を顧みたからだと思まり過去を振り返らないと未来は開けないのできこもり自分の過去を進めることができました。つた。そうすることで自分の人生の構造がわかりた。そうすることで自分の人生の構造がわかりた。そうすることで自分の人生の構造がわかりた。そうすることが叫ばれますが私はそうは返らないということが叫ばれますが私はそうは返らないということが叫ばれますが私はそうは返らないということが叫ばれますが私はそうは返らないということが叫ばれますが私はそうは返りない。

(6ページに関連記事掲載)

報道された。親になりすま して家族会で親と激論した ことがきっかけとなり「ひ きこもり親子公開対論」を 開催するなどアクティブに

支え合う

互いの本音「公開対論」で



→ 「ひきこもり文学」 (12 月 5 日放送 NHK E テ レ) ひきこもる本人たちの手記を集めた雑誌「ひ きポス」の執筆者本人による朗読で構成された番 組に執筆者の一人ぼそっと池井多氏が登場。当 NPO 主催の講演会後半に開かれた座談会で親や 当事者の悩みに耳を傾ける姿が映しだされた。



活動する内容が掲載。

『一ひきこもり― 就職氷河期からコロナウイ ルス時代を見据えた全世代型支援 (臨床心理学 第 20 巻第 6 号)』

毎号、豪華識者執筆陣によるタイムリーな特集が組まれている心理臨床家 の専門誌「臨床心理学」2020年11月に発行された第6号では3部構成で 「ひきこもり」を特集。編著者である宮崎大学教育学部准教授の境 泉洋氏 をはじめ、ジャーナリストで KHJ 全国ひきこもり家族会連合会理事の池上 正樹氏、ひき桜 in 横浜の当事者ピアサポーターToshi さんのほか、第3部 「ひきこもり支援」では、居場所支援について当 NPO の田中敦理事長が執筆 している。金剛出版発行 全 160 頁 定価 1,760 円 (税込)

『北方ジャーナル 危険な支援の自己満足~ 過去を見つめてこそ未来は拓く』

月刊情報誌「北方ジャーナル」2020年12月号 ルポ「ひきこもり」 64では当 NPO 主催の講演会「長期化するひきこもり家庭のコミュニケーション不全」後編が掲載。 質疑応答で最も印象深かったのは「『支援者の支援したいという気持ち』を満足させるために当事者は 存在しているのではない」というメッセージだ。ジャーナリストの武智敦子氏が取材執筆する。

(有) Re Studio 発行 A4 版 定価 880 円

臨床心理学 120 ひきこもり ※如本ののから

刊行物の紹介

皆様からの投稿をお待ちしています

〒064-0824 札幌市中央区北4条西26丁目3-2 「NPO 法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク」事務局 通信編集部 宛 e-mail;info@letter-post.com

北 海 危 機 道 的 新 な 聞 状況 • 私 に \mathcal{O} は 新 思 聞 評 11 切 0 田 た 中 生活 敦 理 保 事 障が 長 0 必 記 要 事 揭 載

したが、担当ピアスタッフが雪の影響で来れない事態となり、

は私が担当しました。男女各1名

12月19日(土)、KHJ北海道「はまなす」12月定例会で

がなく支援先まで徒歩で8時間歩いた」当事者の実態を述べた。 かせない。 り」「オンラインの有りよう」「解雇問題」の記事を取り上げ、 いるが、危機的な状況には安心できる思い切った生活保障政策がやはり欠 であらゆることは語れないが、必要なところにお金が回るようにしていく ことが必要である。また経済とコロナ対策の両輪を回すのに必死となって 12 月1日 义, 私の新聞評では、 「健康問題」「学生の孤立度の高ま 字数制限 「所持金



かり

たか田中

報じて

ス感染が再び急拡大し、政府の「G 寒さとともに新型コロナウイル To トラベル」事業から札 のし

先 (1月2日夕刊1面)では、 問わず

警察対応

検索画面に相談 やすくなることも大きな問題だ。 するのか先の見通しが立ちにくい

誰とも話さずに1日が過ぎ、

する「がんを防ごう」シリーズの 労が重なる。疲れもたまりやすく、 ような報道も大切だ。 唱つ一方、 コロナ禍の前から継続 いる。めまぐるしく変わる情勢を 私たちの健康問題は大きくなって

(社説)

幌市が除外された。

とが、道民目線の安心を届けるこ ス対策が優先される中、他のさま 療従事者・研究者が協働でまとめ 月7日朝刊社会面) はそんな記事 ざまな疾患にも目を向けていくこ な声が伝わる。 新型コロナウイル た提言からは、患者や家族の切実 だった。全国のがん患者代表と医 継続の支援 子を望むか確認」(11 患者目線で19項目提言 翦

> 応に苦慮している点も留意する必 担が増していることや、教員側も オンライン授業の課題を指摘して 月21日朝刊社会面) は、こうした

子生の表情がつかめないため、対 いる。学習課題が多く、学生の負

予断を許さない状況が続き、心

れたという。

|遠隔授業 大学生に不満」(9

在学生の約1割にうつ症状が見ら

20201201 朝刊

私の新聞評 り入れる「ハイブリッド型学習」 部「ネット授業『一律』の壁」(9 の実践が紹介されている。環境整 ン授業とリアル授業の良い所を取 月11日朝刊2面) では、 オンライ 要がある。 一方、検証コロナ禍の企画第2 ているのか、今後の報道に期待し 道内の就労支援の実態はどうなっ のしわ寄せは大きくなっていく。 が長引くほど、社会の弱い部分へ で記事に接していない。コロナ禍 ォームについても、筆者はこれま

るきっかけとして前向きにとらえ 体もあるが、不登校の生徒への活 る視点も重要だ。 用など多様な学びの形態を模索す 備が追いつかず消極的な地方自治 同じ企画の「労働相談 やまな

仏況では、人々が社会的に孤立し

自殺阻止へネットも模索 昼夜

代の支援策として49歳まで引き上 は、派遣社員を解雇され、 げられた。この支援活動に関する 者サポートステーション」の対象 記事を、地方版を含めて探してみ 年齢が本年度から、就職氷河期世 男性の話は身につまされた。 もなく、本州から北海道に渡り、 い電話」(9月21日朝刊2面)で 支援団体まで徒歩で8時間歩いた 若者の就労支援を行う「地域若

明日はわが身と考えて~ひきこもり

えている。オンライン授業を導入 の中で叫びたくなる。寂しくてた

した大学が行った実態調査では、

まらない」という大学生の声を伝

職氷河期世代活躍支援プラットフ ほとんど見当 この評は札幌市内配布の新聞をもとにしています。

たが、残念ながら、

たらなかった。

今年7月に設立された北海道就

©北海道新聞社

8050 問題~ 北海道新聞に掲載 当事者の集まり「すなはま」 事ではないことです。 取り残されるのではという不安が語られました。いずれも他人 護の苦労のお話や、お小遣いがなくしばらく買い物をしていな の計2名で少人数でしたが、ゆったりと過ごしました。家族介 いので、今の売れ筋とか価格設定がよくわからないと、ひとり

うした中、北海道新聞朝刊全道版(解説)は、精力的にひきこ ばかりで、成人期の支援がおろそかではないかと思います。 もりを取材し続ける末角仁記者が「記者の視点」として、 こもり「8050問題」を取り上げ、 社会政策も一般から賛同を得やすい子どもの貧困や若者支援 論考されました。

805 ひき

そ

ることは多々あるのではな 道のあり方は問われると思 いかと思います。改めて報 域からは奇異な目で見られ ですが、8050世帯は地 がちであります。 家族の自己責任に収束され 親亡き後がセットとなるこ 職員が提唱した言葉である Oという言葉は関西の社協 います。関心のある方はご 上の課題として、 たのは普段からの危機管理 とで、こういう事態に陥っ ことが知られていますが 当事者や 私も50代

田中 敦

20201220 朝刊 (解説) ひきこもり「8050問題 記者の 明日はわが身と だ 事長(5)は「ひきこもりの人 が知り了事とが報道される。 では、「ひき」もりの人は犯罪 できた。「ひき」と時間に解释され てきた。「事者からは間実的 同であられているのではなる 変の声が上れる」と様す。 できたよりは、漢の世界の 日本事ではなく「西日はおが 日本事ではなく「西日はおが に 世代は当時から支援の手が及 が でいる 大でいないと配議されてはい 大でいないと配議されては たい と把握する 見過ごされてき たい と把握する ちかを 10年 たい と把握する ちかを 10年 たい と把握する ちかを 10年 たい と把握する ちかを 10年 たい と 10年 で 10年 前田正子教授は「就職氷河城番店」の著書がある甲南大の

7

の北海道新聞針



こちら事務局! *今後の動き(2021年1月~)*

◆居場所「よりどころ」当事者会「SANGO の会」「サテライト事業」 参加に伴う留意事項について 新型コロナウイルス感染防止策として当 NPO では、居場所「よりどころ」当事者会・親の会をはじ め当事者会SANGOの会、サテライト事業へ安全に参加していただくため、出席にあたっては、マス クを着用のうえ、検温の実施、咳エチケットの徹底、手洗い又は手指消毒を行うなどの留意事項を遵守 していただくことをお願いしています。たいへん厳しい状況のなかでの開催ですが、ご理解のうえよろ しくお願いします。留意事項については団体ホームページをご覧ください。http://letter-post.com/

◆ 「SANGO の会」例会のご案内

2021年1月は下記日程にて行います。新型コロナウイルス感染拡大による体調不安者に考慮して オンライン例会も併行して実施します。 概ね 35 歳を基点にしていますが年齢に関係なく、ひきこもり 当事者や経験者で、同様な仲間と話をしてみたい聞いてみたいと思っている方、またいろいろな情報を 得たいと考えている方は、いらしてください。オンライン例会に参加ご希望の方は、パスコード発行の ため、当 NPO ホームページから事前申し込みが必要です。詳細は事務局までお問い合わせてださい。 《通常例会は中止》

2021年1月開催の通常例会は、施設利用不可であるため「中止」します。

《オンライン初心者(たとえば体調不安がある人、初参加の人)例会》

とき:2021年1月27日(水) 午後5時30分から7時30分まで

開催のご案内は随時、当 NPO のホームページで公開していきますのでご確認ください。

◆居場所「よりどころ」開催のご案内(2021年1月~3月)

(当事者会) 1月4日(月) 1月18日(月)※ 10階1050会議室

2月1日(月)※ 10階1050会議室 2月15日(月)※ 10階1010会議室

3月1日(月)※ 3月15日(月)※ 10階1050会議室

(感染防止の観点から当初の貸室を変更)

1月11日(月/祝)※ 1月25日(月 10階 1010会議室

> 2月8日(月) 2月22日(月)※ 10階 1010 会議室 3月8日(月)※ 3月22日(月)※ 10 階 1010 会議室

開催会場: 北海道立道民活動センター「かでる2.7」

(札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 道民活動センタービル) JR 札幌駅南口から徒歩 13 分

開催時間: いずれも午後 1 時 30 分から午後 3 時 00 分まで(短縮開催)

利用対象:ひきこもり当事者及びその家族

参加費:無料 事前申込不要 直接会場にいらしてください。

※印の日は、ひきこもり地域支援センター相談員の参加予定日です。

◆小樽サテライト居場所事業のご案内

札幌圏でひきこもり当事者会が未設置の小樽市・江別市・苫小牧市でサテライト型の居場所を開催し てきましたが、江別市、苫小牧市は 12 月ですべて終了しました。小樽市で開催する第5回「サテライ トSANGOの会」が今年度最後の居場所事業となります。

サテライト SANGO の会 in おたる⑤

とき:2021年1月20日(水)午後2時から4時まで 出入り自由。

会場: 小樽市生涯学習プラザ「レピオ」第6学習室(小樽市富岡1丁目5-1) 内容:ピアスタッフによる話題提供+当事者会と家族会 Table に分かれた交流

利用対象:ひきこもり当事者及びその家族 参加費:無料 事前申込不要 直接会場へ

☆編集後記☆

新型コロナ禍での新年を迎えました。前年度中止し延期した事業や規模縮小を余儀なくされた事業が ありました。新年度はこれら課題を乗り越えていけるよう歩んでいきます。ご支援の程お願いします。

(発行責任者 理事長 田中 敦)

無 断 複 製 はおやめください